

2018年度 センター試験 政治・経済（本試験） 分析

全体概況

試験時間 60分

大問数・解答数	大問数：4題	解答数：34問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 大問数4題、解答数34問で3年連続変化なし。内容面では時事性の高い問題（電力自由化、近年の安全保障、ベーシックインカム、フェアトレードなど）が多めに見られた。形式面では、年代を並び替える問題と語句と説明文を組み合わせる問題が1題増えて2題となり、2012年以降出題の無かった8択問題が復活したものの、図や表を用いた資料問題は6問、穴埋め問題は4題であり、昨年からの大きな変化は見られなかった。昨年に比べ、平易な選択肢が減ったため、難しく感じた受験生がいたかも知れない。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	国家観の変遷についてのリード文を素材に、政治・経済の各分野を幅広く問う。	28点	問2の「第三の道」は受験生にとってなじみの薄い言葉であった。問9はスマートグリッドや電力自由化など近年の電力について問われ、問10の近年の安全保障政策について問われた問題とともに時事性が高い問題。
第2問	ニクソン・ショックについての会話文を素材に、政治・経済の各分野を幅広く問う。	24点	問3の年代並べ替えは年号が近接しており、正確な知識が要求された。問8は年代の把握が必要であり、出来事の時期を意識して学習してこなかった受験生にとって苦しい問題だっただろう。
第3問	国家間、地域間、個人間格差についてのリード文を素材に、主に経済の各分野を幅広く問う。	24点	問4の表を読み取る問題は基本的な知識で対応が可能であり、平易な問題。問8では受験生には見慣れない表が出題されたが、知識がなくとも選択肢の文章に沿って表を読み解くことで、正解を導くことが可能な問題であった。
第4問	男女間の格差についてのリード文を素材に、主に政治の各分野を幅広く問う。	24点	問1の表を読み取る問題は、選択肢から国名を判断することができれば、正解を導くことが可能。問5は問題文が分かりづらいが、ポジティブアクションの例を聞いていることが読み取れば難しくない。